

第5回 2017年9月14日(木)

第5回の一流塾では、講師に森澤紳勝氏（㈱日本トリム代表取締役社長）と福川伸次氏（一流塾特別顧問、(一財)地球産業文化研究所顧問、東洋大学理事長、元通商産業事務次官）を、特別ゲストには中須賀真一氏（東京大学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻教授）をお迎えしました。また懇親会には、一流塾特別顧問の斉藤惇氏（(株)KKR ジャパン会長、前(株)日本取引所グループ取締役兼代表執行役グループ CEO）と、講師の渡邊五郎氏（元三井物産(株)副社長）にもご出席頂きました。



【講師 森澤氏】

第1部では、『創業から今日まで～良い会社とは～』と題して森澤氏が講義を行いました。前半、創業当時はタダ同然と思われていた「水」でビジネスを始めようとした理由や思いをご紹介頂きました。その後、起業してから数年間の壮絶な試練や、ビジネスが軌道に乗り始めてからの新たな苦難の数々を、具体的なエピソードを交えてお伝え頂きました。その上で、これまでの家庭用医療機器メーカーからメディカルカンパニーへと発展するための取り組みや、企業の老化を防ぐために若い人材を抜擢し後継者を育てることの重要さなどをお話し頂きました。後半では、経営者として大切にしていることとして、「社会正義に則る」、「ゼロに懸けない」、「責任はとるものではなく果たすもの」、「人生に僥倖はない」などを分かりやすくお伝え頂き、締めくくりには、「夢は必ず実現する～I hopeではなくI do～」という座右の銘とともに、塾生を激励して頂きました。塾生からは、「大切にされている

言葉は、創業時の大変な苦労を経て語られたものであり、心に響いた」「リーダーの原動力は好奇心と信念だと痛感した」といった声が寄せられました。



【講師 福川氏】

第2部では、『世界はどうなる、日本はどうする～変容する世界、日本力の再生の途を探る～』と題して福川氏が講義を行いました。前半では、福川氏ならではのご経験や卓越した情報収集力に基づく多角的分析に基づき、世界のガバナンス構造の変化やグローバル・セキュリティのリスクの増大、市場リスクの増大などをご説明頂きました。その上で、日本の戦後の復興から現在の停滞する経済社会までの歴史的背景を的確にご紹介頂きました。後半は、産業と文化の融合により「日本力」を発揮してグローバルイノベーションとイノベーションに挑戦することの重要さをお伝え頂きました。最後に、これからはグローバルで「人間価値主導の経済社会」が求められるため、日本企業は日本文化特有の強みと弱みを理解し、人間力を充実させることが不可欠であるとお話し頂きました。政治・経済・文化の広範な領域にわたる福川氏の鋭くかつ明快な分析には、塾生から、「産業と文化の融合は、日本の

強みを発揮できそうで勇気づけられた」、「世界の中の日本の立ち位置を改めて認識し、企業経営を通じて日本再生に貢献したい」といった声が上がりました。

懇親会では、一柳塾長による開会の挨拶と斉藤氏による乾杯の後、特別ゲストで、超小型衛星の第一人者の中須賀氏から『超小型衛星による新しい宇宙利用とビジネスの可能性』と題して卓話を頂きました。超小型衛星の特徴や開発の歴史などを具体的にご説明頂きながら、そのビジネスの可能性の広がりや将来性をご紹介頂きました。最先端の航空宇宙工学のテーマでありながら、中須賀氏の分かりやすいご説明に塾生も熱心に聞き入り、新しいビジネスへの関心が生まれ、夢と情熱の大切さを実感したと大変好評でした。その後、渡邊講師からもご挨拶を頂き、各テーブルでは講師陣と塾生とのオープンな意見交換や議論が続きました。

懇親会後に塾生有志が塾長を囲んで行われた放談会では、中須賀氏にもご参加頂き、超小型衛星の話から柔らかな話しまで様々な話題で盛り上がり、袴を脱いだ交流が深夜まで続きました。



【講師 中須賀氏】



懇親会風景



放談会風景